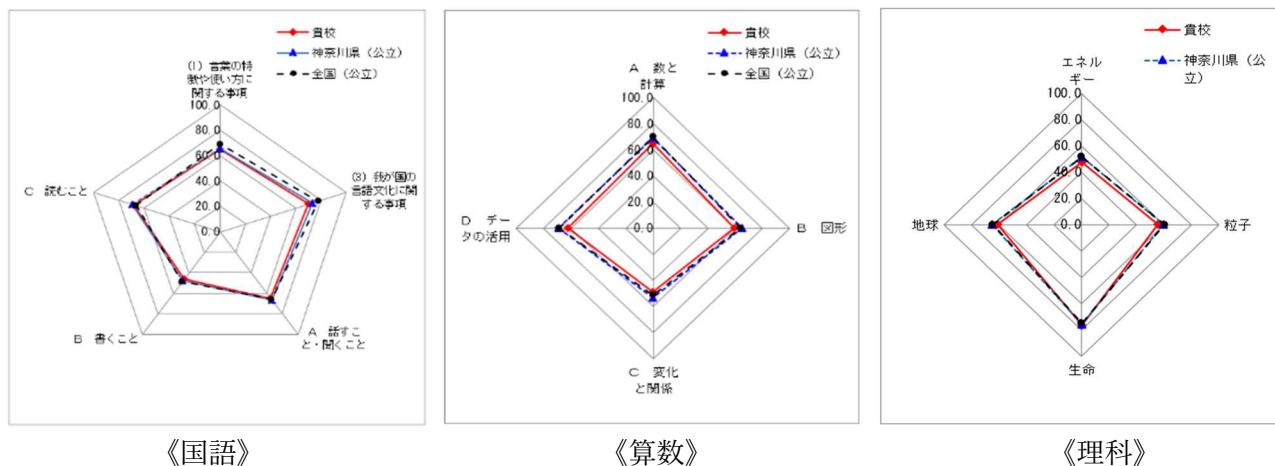


# 令和4年度全国学力・学習調査 東本郷小学校

令和4年4月19日に6年生を対象として、令和4年度全国学力・学習状況調査を実施されました。タイトルの通り、日本全国の6年生と中学校3年生を対象とした調査で、児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ったり、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てたりすることを目的として実施しています。令和4年度の結果から東本郷小学校の学力・学習状況を分析し、学校教育目標「～人にやさしくありがとうの心で がんばるがんばる最後まで 本気で取り組むひがほんの子～」の実現に向けた日ごろの教育活動へと生かしていきます。

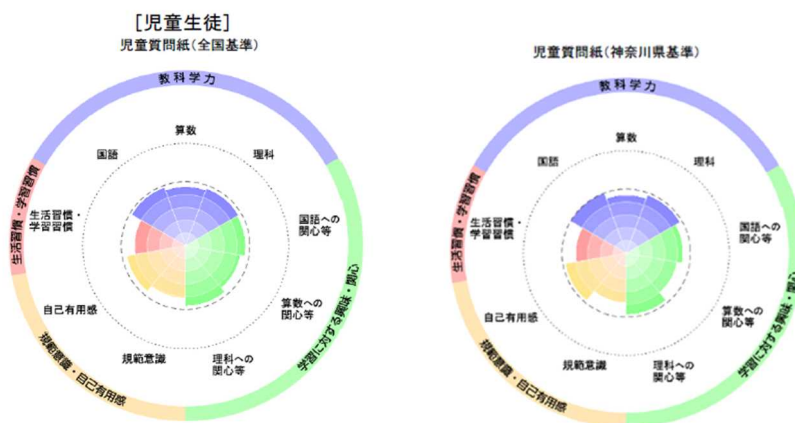
## 1. 学習状況調査の結果



教科別、内容別に見ていくと、おおよそ全体として平均に近い数値が出ており、突出して苦手となる分野は見受けられませんでした。(上表参考) また、全体のチャート図(下表)を見ると国語と理科においてはおおよそ全国及び神奈川県の平均正答に近いものの、算数については、他の教科と比べると平均を下回っていることがわかります。

## 2. 学習状況の分析と対策

学習に対する興味・関心の項目も算数が平均を下回っています。内容を見ていくと「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の質問に対して、当てはまる、どちらかといえば当てはまると答えた児童の合計が、神奈川



川県の平均が 80.3%のところ、東本郷小学校は、69.7%。また、「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」という質問に対しても、神奈川県の平均 77.5%に対して東本郷小学校は 64.4%と算数に対して苦手意識をもつ児童が多いことがうかがわれます。

一方で、「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問に対しては、役に立つと感じる児童が、神奈川県の平均 94.6%に対して東本郷小学校の児童は 99.2%と大きく上回る結果となっています。今後の教育活動の中では効果的に ICT 機器を活用して問題に取り組んだり、考えを共有したりすることを通して、子どもたちが、多角的・多面的に物事を考えられる力を育み、算数の見方・考え方を働かせながら問題解決に向かえるよう指導の在り方を職員で協議し、授業改善へとつなげていきます。